

市況予想レンジ

項目	時期	直近3ヵ月実績		
	予想	6月	7月	8月
長期国債10年物(%)	9~11月 1.20 ~1.70	1.165 ~1.315	1.165 ~1.315	1.330 ~1.485
円ドル相場(円)	100 ~112	106.53 ~110.57	110.33 ~113.19	109.05 ~112.77
TOPIX(東証株価指数)(ポイント)	1,200 ~1,400	1,137.60 ~1,179.18	1,174.92 ~1,207.48	1,174.16 ~1,283.23

今後3ヵ月の市況見通しに月次の実績を記載しております。

当面の見通しと注目点

ファンダメンタルズ

(日本)

景気は、以下の理由により、踊り場を脱却し、回復基調を強めると予測します。

BBレシオの継続的な改善や台湾の世界的なハイテク企業の稼働率の上昇等に見られるように、ハイテク部門の在庫調整が一巡したため、日本の鉱工業生産も電子・デバイスが牽引し、増加が見込まれること。

弱含みだった輸出も、IT在庫調整の終了により、アジア向け、米国向け中心に持ち直しが期待できること。

(米国)

新築の住宅価格上昇率の伸びの鈍化、これまでの継続的な利上げやガソリン価格上昇の消費への影響等が懸念されるものの、想定以上に速いペースで製造業における在庫調整が一巡しており、今後は生産の持ち直しが期待できることなどから、巡航速度の成長率を維持するものと予測します。(なお、ハリケーンの被害規模や復興見通しについては不透明要因が多く予測しにくいものの、マクロ的な影響は比較的軽微という前提を置いています。)

株 式

(国内)

ハイテク関連を中心にグローバルでの在庫調整圧力は後退したため、企業業績の下期回復の可能性が高まる一方、バリュエーションも今期コンセンサスを前提としてもTOPIX1,250~1,300程度がフェアな水準であり、1300程度でも業績もメンタムを考慮すれば割高感はないと考えます。当面、上昇基調で推移すると予測します。

(外国)

2Q決算発表が予想以上に良好であり、ITセクターは全般的に底入れ、改善の兆しが多く見られる一方、マクロ統計でも受注環境の改善が見られ、今後の企業収益予想も上方修正の可能性が高いと考えます。一方、金融政策も年内の利上げ継続程度であればすでに折込済みであり株価を下ぶれさせるには至らないため、株価は上昇基調で推移すると予測します。

債 券 ・ 為 替

(債券)

(日本)

金融政策は、目標当座預金残高を30~35兆円程度とする現行の金融市場調節方針に変更はないものの、国内経済が外需およびITを中心とした生産の持ち直しにより踊り場を脱却するため、長期金利は緩やかながら上昇基調で推移すると予測します。

(米国)

ハリケーンの影響への懸念により利上げペースはやや鈍化する可能性があります。消費や住宅投資が底堅く推移するなか、製造業の在庫調整の一巡により製品需給も下げ止まりとなるためインフレ圧力がかかり、長期金利も上昇基調で推移すると予測します。

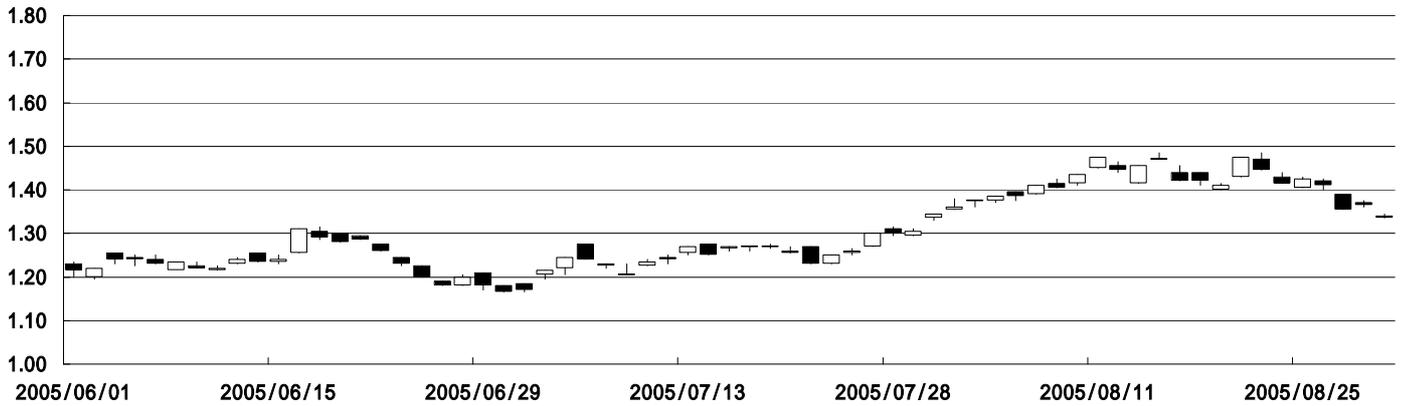
(為替)

円ドルは、足許、米国ハリケーンの被害への懸念や日本の衆院選挙の結果を受けてやや円高での推移となっていますが、今後も、日本のハイテクを中心とした景気回復による日米景況感格差の縮小、これに伴う日本株への外人買い、在庫調整一巡による米経常赤字の再拡大等からドル安傾向での推移となると予測します。

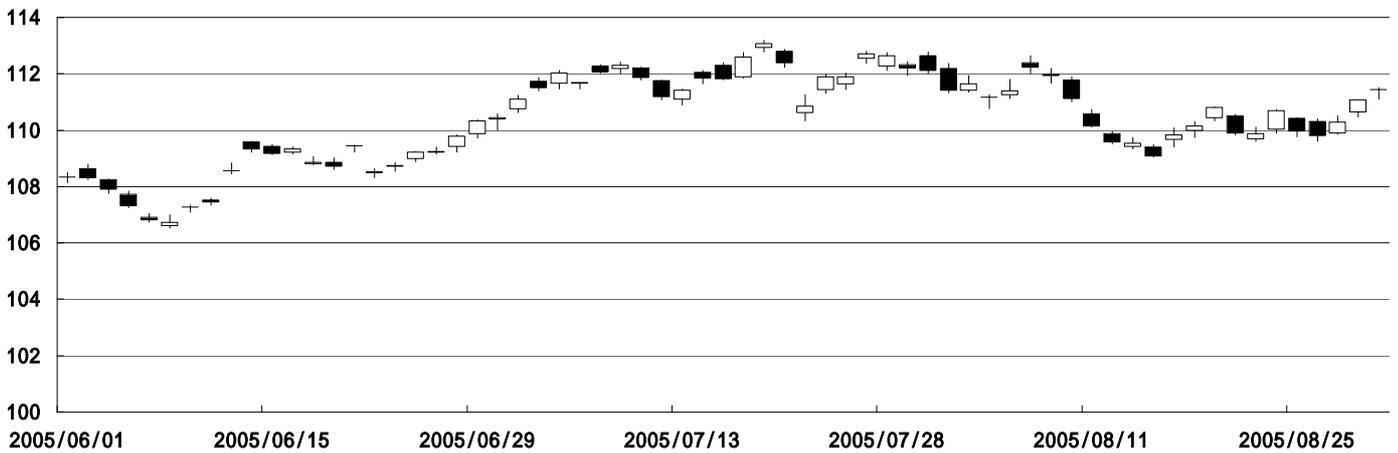
・当資料は情報の提供を目的としており、当資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。
 ・当資料は当社が信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
 ・当資料に記載された意見などは、資料作成時点の当社の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります。
 ・投資に関する決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。

市況の推移

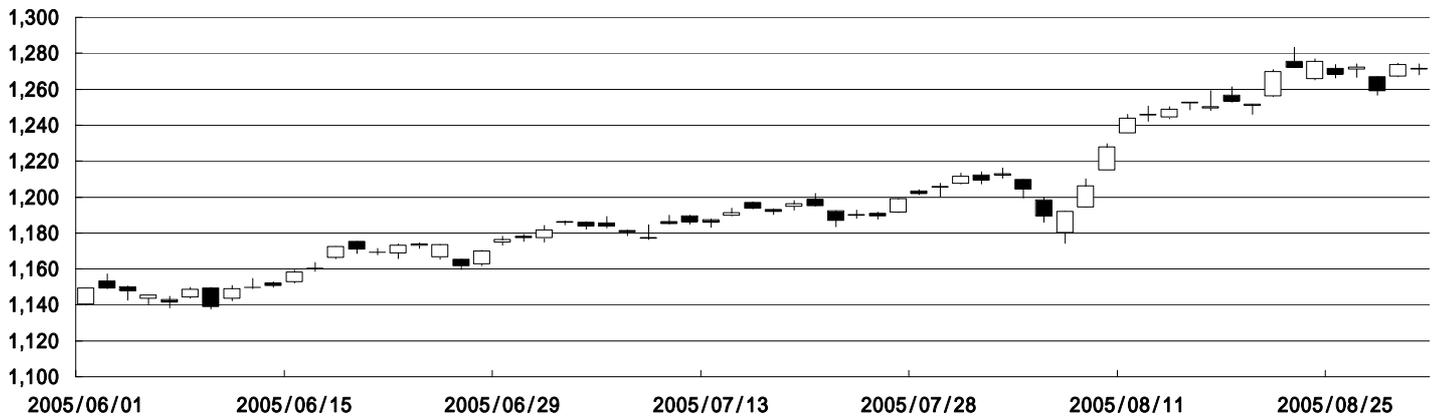
10年国債利回り



US\$/¥為替レート



TOPIX(東証株価指数)



・当資料は情報の提供を目的としており、当資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。
・当資料は当社が信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
・当資料に記載された意見などは、資料作成時点の当社の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります。
・投資に関する決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。